

《担当者名》向谷地生良[ikuyoshi@hoku-i-ryo-u.ac.jp]

【概要】

精神疾患が「国民病」として身近な生活習慣病のひとつになるほど精神障害は、市民の健康や暮らしに重大な影響を及ぼす要因の一つであり、先進国でも、疾患の政策的重要度の指標である「健康・生活被害指標DALY」はトップになっている。一方、精神疾患概念も、1980年代以降、精神病理学的な接近に代わって精神生物学的なアプローチと理解が主流となることによって、精神障害を持つ人へのケアや相談援助の前提に大きな揺らぎが生じている。そうした動向をふまえ、エンパワメントアプローチとリカバリーの視点から、当事者研究の事績に学び、精神障害をもつ人々を対象とした、治療レベルにおける構造化された一貫性のある心理社会的な介入と地域生活支援体制のあり方と、それらに影響を与える日本の精神保健福祉に関連した制度・政策の歴史と現状の課題を、最新の研究動向から検証する。

【学修目標】

- 1) 精神疾患概念の変遷に影響を与えた社会的・文化的要因を理解し、治療・ケアの概念そのものを批判的に検証する。
- 2) 批判的な検証を通じて、新しい治療やケアの概念を提案できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 6	精神疾患概念とそれに影響される治療・ケア概念の変遷を検証する	1) 精神医学の歴史を人類学の立場から考える 2) 精神医学の科学的な基盤を考える 3) 精神医学を当事者の視点から考える	向谷地
7) 9	精神障害福祉制度の現状の検証と課題の整理をする	1) 戦後の精神保健福祉施策の変遷を学ぶ 2) 我が国の精神医療施策の特徴と課題を明らかにする	向谷地
10) 12	精神保健福祉の現状と当事者研究の可能性	精神医療の現場ではじまっている当事者研究の活用とその成果について論文と実践報告を中心に検証し、その意義を考える	向谷地
13) 14	精神保健福祉領域におけるソーシャルワーク実践と当事者研究の活用	1) 精神保健福祉領域に当事者研究の臨床知を活かす実践について考える 2) 事例研究を通じて、当事者研究の意義と課題を考える	向谷地
15	本論の総括を図る	精神保健福祉領域におけるソーシャルワーク実践と当事者研究の可能性を考える	向谷地

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

授業におけるプレゼンテーション50%、討論への参加50%

【教科書】

「立法百年史 精神保健・医療・福祉関連法規の立法史」広田伊蘇夫（批評社）、シリーズ「精神医学の哲学」三巻（東大出版会）

【参考書】

随時提示する

【学修の準備】

事前に文献と関連資料を読み、プレゼンテーションできるような準備が望まれる。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

本科目の内容は、深い学識と高度な実践力、指導的役割の発揮力を修得するという臨床福祉学専攻博士後期（博士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。